

2025年度 一般選抜

国 語

〈全学部全学科共通問題〉

1月26日実施 B日程

注 意 事 項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題の冊子を開かないでください。
2. 本冊子には、13ページの問題文があります。
3. 解答用紙は、すべてマーク・シートになっています。
4. 監督者の指示で、受験番号欄に受験票に記載されている受験番号（数字6桁）を縦に記入し、それぞれ右のマーク欄にマークしてください。受験番号が正しくマークされていない場合は、採点できないことがあります。氏名欄に氏名も忘れず記入してください。
5. 解答科目欄には、解答する科目を1つ選び、マークしてください。
6. 解答は、設問の箇所に指示されている解答番号の解答欄にマークしてください。例えば、と指示されている設問に対して、③と解答する場合は、次の例のように解答番号20の解答欄の③にマークしてください。

(例)

解答 番号	解 答 欄									
20	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩

7. 解答番号は ~ です。 ~ の解答欄には何も記入しないでください。
8. マークは、硬度HB以上の鉛筆を使用し、訂正する場合は消しゴムでていねいに消し、消しくずを残さないように注意してください。
9. 解答時間は、60分です。

問題 1 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

突然だが、日常的にはよく使うけれど立ち止まって考えられることのほとんどない、とある言葉を取り上げるところから始めたいと思う。

その言葉とは「贅沢」である。

贅沢とはいったいなんだろうか？

まずはこのように言えるのではないだろうか？ 贅沢は不必要なものに関わっている、と。必要の限界を超えて支出が行われるとき、人は贅沢であると感じる。たとえばゴウカ^aな食事がなくても生命は維持できる。その意味で、ゴウカな食事は贅沢と言われる。装飾をふんだんに用いた衣類がなくても生命は維持できる。だから、これも贅沢である。

贅沢はしばしば非難される。人が「贅沢な暮らし」と言うとき、ほとんどの場合、そこには、過度の支出を非難する意味が込められている。必要の限界を超えた支出が無駄だと言われているのである。

だが、よく考えてみよう。たしかに贅沢は不必要に関わっており、だからこそそれは非難されることもある。ならば、人は必要なものを必要な分だけもって生きていけばよいのだろうか？ 必要の限界を超えることは非難されるべきことなのだろうか？

ア おそらくそうではないだろう。

必要なものが十分にあれば、人はたしかに生きてはいける。しかし、必要なものが十分あるとは、必要なものが必要な分しかないということでもある。十分とは十二分ではないからだ。

必要なものが必要な分しかない状態は、リスクが極めて大きい状態である。何かのアクシデントで必要な物が損壊してしまえば、すぐに必要のラインを下回ってしまう。だから必要なものが必要な分しかない状態では、あらゆるアクシデントを排して、必死で現状を維持しなければならない。

これは豊かさからはほど遠い状態である。つまり、必要なものが必要な分しかない状態では、人は豊かさを感じるができない。必要を超えた支出があつて

はじめて人は豊かさを感じられるのだ。

したがってこうなる。必要の限界を超えて支出が行われるときに、人は贅沢を感じる。ならば、人が豊かに生きるためには、贅沢がなければならない。

とはいえ、これだけでは何かしつくりこないと思う。

お金を使いまくったり、ものを捨てまくったりするのはとてもいいことだとは思えない。必要を超えた余分が生活に必要ということは分かるし、それが豊かさの条件だということも分かる。だが、だからといって贅沢を肯定するのはどうなのか？

このような疑問は当然だ。

この疑問に答えるために、ボードリヤールという社会学者・哲学者が述べている、浪費と消費の区別に注目したいと思う。贅沢が非難されるときには、どうもこの二つがきちんと区別されていないのだ。【 1 】

浪費とは何か？ 浪費とは、必要を超えて物を受け取ること、吸収することである。必要のないもの、使い切れないものが浪費の前提である。

浪費は必要を超えた支出であるから、贅沢の条件である。そして贅沢は豊かな生活に欠かせない。

浪費は満足をもたらす。理由は簡単だ。物を受け取ること、吸収することには限界があるからである。身体的な限界を超えて食物を食べることはできないし、一度にたくさんの服を着ることもできない。つまり、浪費はどこかで限界に達する。そしてストップする。

人類はこれまで絶えず浪費してきた。どんな社会も豊かさをもとめだし、贅沢が許されたときにはそれを享受した。あらゆる時代において、人は買い、所有し、楽しみ、使った。「未開人」の祭り、封建領主の浪費、一九世紀ブルジョワの贅沢……他にもさまざまな例があげられるだろう。

しかし、人類はつい最近になって、まったく新しいことを始めた。

それが消費である。

浪費はどこかでストップするのだった。物の受け取りには限界があるから。し

か^aし消費はそうではない。消費は止まらない。消費には限界がない。【 II 】
なぜか？

消費の対象が物ではないからである。

人は消費するとき、物を受け取ったり、物を吸収したりするのではない。人は物^bにフヨされた観念や意味を消費するのである。ボードリヤールは、消費とは「観念論的な行為」であると言っている。消費されるためには、物は記号にならなければならない。記号にならなければ、物は消費されることができない。

記号や観念の受け取りには限界がない。だから、記号や観念を対象とした消費という行動は、決して終わらない。

たとえばどんなにおいしい食事でも食べられる量は限られている。腹八分目という昔からの戒めを破って食べまくったとしても、食事はどこかで終わる。いつもいつも腹八分目で質素な食事というのはさびしい。やはりたまには豪勢な食事を腹一杯、十二分に食べたいものだ。これが浪費である。浪費は生活に豊かさをもたらす。そして、浪費はどこかでストップする。

それに対し消費はストップしない。たとえばグルメブームなるものがあつた。雑誌やテレビで、この店がおいしい、有名人が利用しているなどと宣伝される。人々はその店にサットウ^cする。なぜサットウするのかというと、だれかに「あの店に行ったよ」と言うためである。

当然、宣伝はそれでは終わらない。次はまた別の店が紹介される。またその店にも行かなければならない。「あの店に行ったよ」と口にしてしまった者は、「えええ？ この店行ったことないの？ 知らないの？」と言われるのを嫌がるだろう。だから、紹介される店をエンエン^dと追い続けなければならない。

これが消費である。消費者が受け取っているのは、食事という物ではない。その店にフヨされた観念や意味である。この消費行動において、店は完全に記号になっている。だから消費は終わらない。

(中略)

消費社会はしばしば物があふれる社会であると言われる。物が A である、と。しかしこれはまったくのまちがいである。サーリンズを援用しつつボードリヤールも言っているように、現代の消費社会を特徴づけるのは物の A ではなくて B である。消費社会では、物がありすぎるのではなくて、物がなすすぎるのだ。

なぜかと言えば、商品が消費者の必要によってではなく、生産者の事情で供給されるからである。生産者が売りたいと思う物しか、市場に出回らないのである。消費社会とは物があふれる社会ではなく、物が足りない社会だ。

そして消費社会は、そのわずかな物を記号に仕立て上げ、消費者が消費し続けるように仕向ける。消費社会は私たちが浪費ではなくて消費へと駆り立てる。消費社会としては浪費されては困るのだ。なぜなら浪費は満足をもたらしてしまうからだ。消費社会は、私たちが浪費家ではなくて消費者になって、絶えざる観念の消費のゲームを続けることをもとめるのである。消費社会とは、人々が浪費するのを妨げる社会である。

消費社会において、私たちはある意味で我慢させられている。浪費して満足しなくても、そのような回路を閉じられている。しかも消費と浪費の区別などなかなか思いつかない。浪費するつもりが、いつのまにか消費のサイクルのなかに閉じ込められてしまう。

この観点は極めて重要である。なぜならそれは、質素さの提唱とは違う仕方での消費社会批判を可能にするからである。【 Ⅲ 】

しばしば、消費社会に対する批判は、つましい質素な生活の推奨を伴う。「消費社会は物を浪費する」「人々は消費社会がもたらす贅沢に慣れてしまっている」「人々はガマンして質素に暮らさねばならない」。日本でもかつて「セイビンの思想」というのが流行ったがまさしくこれだ。

そうした「思想」は根本的な勘違いにもとづいている。消費は贅沢などもたらない。消費する際に人は物を受け取らないのだから、消費はむしろ贅沢を遠ざけている。消費を徹底して推し進めようとする消費社会は、私たちが浪費と贅沢を奪っている。

C 単にそれらを奪っているだけではない。いくら消費を続けても満足はもたらされないが、消費には限界がないから、それはエンエンと繰り返される。エンエンと繰り返されるのに、満足がもたらされないから、消費は次第に過激に、過剰になっていく。しかも過剰になればなるほど、満足の欠如が強く感じられるようになる。

これこそが、二〇世紀に登場した消費社会を特徴づける状態に他ならない。

消費社会を批判するためのスローガンを考えてとすれば、それは「 D
」になるだろう。

消費を記号や觀念の消費として考えていくと、実は、現代のさまざまな領域が消費の論理で動いていることが分かる。人間のあらゆる活動が消費の論理で覆い尽くされつつある。

なかでもポードリヤールが注目するのは労働である。現在では労働までもが消費の対象になっている。どうということかと言うと、労働はいまや、忙しさという価値を消費する行為になっているというのだ。「一日に一五時間も働くことが自分の義務だと考えている社長や重役たちのわざとらしい「忙しさ」がいい例である」。

これは労働そのものが何らの価値も生産しなくなったという意味ではない。当然ながら社会のなかにある労働は価値を生産しているし、それがなければ社会はまわらない。「労働の消費」という事態が意味しているのはそうではなくて、消費の論理が労働をも覆い尽くしてしまったということである。【 IV 】

こうやって見ると、ガルブレイスが能天気推奨していた「新しい階級」の問題点がさらにいつそうよく分かる。ガルブレイスは仕事に生き甲斐を見出す階級の誕生を歓迎した。しかし、それは消費の論理を労働にもち込んでいるにすぎない。彼らが労働するのは、「生き甲斐」という觀念を消費するためなのだ。

ここからさらに興味深い事態が現れる。労働が消費されるようになると、今度は労働外の時間、つまり余暇も消費の対象となる。自分が余暇においてまっとうな意味や觀念を消費していることを示さなければならないのである。「自分は生

産的労働に拘束されてなんかないぞ」。「余暇を自由にできるのだぞ」。そういった証拠を提示することをだれもが催促されている。

E 余暇はもはや活動が停止する時間ではない。それは非生産的活動を消費する時間である。余暇はいまや、「俺は好きなことをしているんだぞ」と全力で周囲にアピールしなければならない時間である。^オ逆説的だが、何かをしなければならないのが余暇という時間なのだ。(國分功一郎『暇と退屈の倫理学』)

問一 傍線部 a～e に相当する漢字を含むものを、次の①～④の中からそれぞれ一つずつ選び、番号で答えなさい。

a ゴウカ (1ページ本文7行目)

- 1** ① 図書館で借りた本は、シヨカに収めず、カウンターに返却してください。
- ② あの政治家は政治資金問題で疑惑のカチエウにある人物だ。
- ③ 日本のツウカである円は、明治時代にはじめて採用された。
- ④ 喪中のため、カビな服装を控えている。

b フヨ (3ページ本文5行目)

- 2** ① 今でこそフウフ仲は良好だが、これまでには色々なことがあった。
- ② 文化財の修復にもキフを募らなければならない時代になった。
- ③ ゲームの参加者にカードをシエンブドウに配る。
- ④ 新設備導入のために借り入れたフサイを、長年かけて返済している。

c サットウ (3ページ本文18行目)

- 3** ① サツソクだが、本題に入りたい。
- ② 檻の中のライオンからサツキを感じる。
- ③ サツコンはコストパフォーマンスを重視する若者が増えている。
- ④ 創業五十周年を記念して、ホームページをサツシンする。

d エンエン (3ページ本文23行目)

- 4** ① サービスの契約期間をエンチヨウする。
- ② エンシンリョクでボールを高く飛ばす。

- ③ 七はエンギが良い数字とされている。
- ④ さまざまな経験を積んで、彼の演技はエンジユク味を増した。

e ヤイビン (4ページ本文23行目)

5

- ① ゲヒンな物言いは直した方が良い。
- ② ビンシユツ漢字の読み書きを練習する。
- ③ パーティーでビンキヤクをもてなす。
- ④ 子どものビンコンが深刻な社会問題になっている。

問一 傍線部ア「おそらくそうではないだろう」とありますが、筆者がそう考える理由として最も適切なものを、次の①～④の中から一つ選び、番号で答えなさい。

6

- ① 贅沢こそが余剰や豊かさの実感をもたらすから。
- ② 贅沢を非難することは、貧しさを肯定するに等しいから。
- ③ 必要以上の豊かさを非難することは、それ自体が非難の対象となる行為だから。
- ④ アクシデントに備えることは、リスクの完全排除とは無関係だから。

問二 傍線部イ「消費はそうではない」とありますが、その説明として最も適切なものを、次の①～④の中から一つ選び、番号で答えなさい。

7

- ① 「消費」は物そのものではなく物にフヨされた観念や意味を消費する行為であるため、「浪費」の場合とは異なって、どれだけ消費しても満足には至らないということ。
- ② 物を受け取ったり吸収したりする「浪費」に比べ、「消費」はさらに観念化や記号化の過程を必要とするため、満足をもたらすまでに非常に時間がかかるということ。
- ③ 物を得ることによって満足をもたらすという点では「浪費」も「消費」も同じだが、「消費」の場合、どれだけ消費し続けても贅沢にはつながらないということ。
- ④ 物質的な豊かさを前提とし、余計な「贅沢」につながる「浪費」とは異なり、あくまでも観念的な行為にすぎない「消費」は非難され

にくいということ。

問四 空欄 ・ に入る語句の組み合わせとして最も適切なものを、次の①～④の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- ① A 〓 高価 B 〓 高品質 ② A 〓 記号 B 〓 満足度
③ A 〓 過剰 B 〓 稀少性 ④ A 〓 過少 B 〓 飽和

問五 傍線部ウ「消費のサイクルのなかに閉じ込められてしまう」とありますが、これとほぼ同じことを説明している本文中の文として最も適切なものを、次の①～④の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- ① 人は消費するとき、物を受け取ったり、物を吸収したりするのではない (3ページ本文4行目)
② 消費社会とは物があふれる社会ではなく、物が足りない社会だ (4ページ本文8行目)
③ 絶えざる観念の消費のゲームを続ける (4ページ本文12、13行目)
④ 現代のさまざまな領域が消費の論理で動いている (5ページ本文10～11行目)

問六 傍線部エ「そうした「思想」は根本的な勘違いにもとづいている」とありますが、「勘違い」の内容の説明として最も適切なものを、次の①～④の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- ① 消費社会は人々がたくさん浪費し、贅沢している社会である
② 消費社会では、物の浪費や贅沢が批判の対象になる
③ 贅沢をすることとつましい生活を送ることは、対極にある行為だ
④ 贅沢を排した質素な生活こそが、人々に本当の豊かさをもたらす

問七 空欄 ・ に入る語の組み合わせとして最も適切なものを、次の①～④の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- ① C 〓 しかし E 〓 そもそも ② C 〓 にもかかわらず E 〓 だが
③ C 〓 ゆえに E 〓 つまり ④ C 〓 しかも E 〓 だから

問八 空欄 に入る文として最も適切なものを、次の①～④の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- ③ 消費社会では労働すらも「浪費」の一環であるため、私たちはいつその豊かさと充実を追求して、日々労働に励んでいる。
- ④ 非生産的な活動に充てられ、好きなことに没頭できる「余暇」は、消費社会においては唯一、私たちが「消費」の論理から解放される時間である。

問題Ⅱ 次の各問いについて、その解答を選択肢の中から一つずつ選び、番号で答えなさい。

問一 次の意味を表す四字熟語として最も適切なものはどれですか。

16 飾り気がなく、真面目で、強くたくましいこと

- ① 閑話休題 ② 七転八起 ③ 質実剛健 ④ 不俱戴天

問二 次の慣用句の空欄に入る語はどれですか。

17 □の歩み (意味：進み具合が遅いこと)

- ① 蚤のみ ② 狸なな ③ 虎 ④ 牛

問三 次の語の本来の意味として最も適切なものはどれですか。

18 確信犯

- ① 悪いことだとわかっていながら犯される軽微な犯罪
② 実現は不確定だが予測可能な事態が見過ごされたために起こった犯罪
③ 誰の目にも、発生したという事実が明日である犯罪
④ 宗教的・政治的な信念に基づき正しいと信じてなされる犯罪

問四 次の【 】内のようなときに用いる表現として、適切でないものはどれですか。

19 【図書館内での私語を禁止する注意書きの文章】

- ① 他の利用者の迷惑になりますので、私語はご遠慮してください。
② 他の利用者の迷惑になりますので、私語はお慎みください。
③ 他の利用者の迷惑になりますので、私語はお控え願います。
④ 他の利用者の迷惑になりますので、私語はお止めいただきとうございます。

問五 次の傍線部のうち、現代仮名遣いが適切でないものはどれですか。

20

- ① セーターの生地がちぢむ〔縮む〕。
- ② こづかい〔小遣い〕稼ぎにアルバイトをする。
- ③ スマホの画面の見過ぎですつう〔頭痛〕がする。
- ④ 「佐藤さん、こんばんは。先にお母様にお会いしましたよ。」

問六 次の傍線部の助詞と同じ意味で用いられているものはどれですか。

21

期限までに課題を提出する。

- ① 好きな俳優が出演する公演を観に行く。
- ② 大学に行こうとしたが、大雨で電車が止まっていた。
- ③ 当初の予定では、昨日には作品が完成するはずだった。
- ④ 店内を見回してみるに、店員は店の奥にいるようだ。

問七 次のカタカナ部分の表記として最も適切なものはどれですか。

22

彼の指導は、やる気を失った生徒にこそよくキク。

- ① 聞く ② 訊く ③ 利く ④ 効く

問八 次の熟語のうち、一字ともに音読みでないものはどれですか。

23

- ① 減点 ② 欲目 ③ 執着 ④ 抱負

問題Ⅲ 次の各問いについて、その解答を選択肢の中から一つずつ選び、番号で答えなさい。

問一 次の説明に当てはまる作品はどれですか。また、その作者は誰ですか。

作者が国司として赴任した任国から任期を終えて帰京するまでの旅の日記を記す。日記の書き手を、作者自身ではなく女性に仮託して書いている。

24 作品

- ① 土佐日記 ② 東関紀行 ③ 平家物語 ④ 太平記

25 作者

- ① 紀貫之 ② 清少納言 ③ 鴨長明 ④ 小野小町

問二 鎌倉時代に成立した作品はどれですか。

26 ① 源氏物語 ② 南総里見八犬伝

- ③ 古事記 ④ 宇治拾遺物語

問三 次の説明に当てはまる作品はどれですか。また、その作者は誰ですか。

熊本から進学のために上京した青年のさまざまな心情を描いた作品で、この作者の前期三部作の一作目。青年は大学構内で知り合った女性に心をひかれるが、彼女の言動は謎に満ちている。女性は「迷える羊」という言葉を残して別の男性と結婚した。

27 作品

- ① 高瀬舟 ② 檸檬 ③ 三四郎 ④ 浮雲

28 作者

- ① 二葉亭四迷 ② 森鷗外 ③ 夏目漱石 ④ 梶井基次郎

問四 安部公房の作品でないものはどれですか。

- 29 ① 赤い繭 ② 沈黙
③ 砂の女 ④ 壁―S・カルマ氏の犯罪

